



## JICA チェア特別講義の実施

### ～産業の発展 - 日本と他国の経験から～

2024年12月10日

国際協力機構（JICA）ベトナム事務所

12月9・10日、JICAは、舟橋學（ふなばし・がく）国際大学准教授を日本から招き、日本の経験をベトナムのさらなる発展に活かすべく、「産業の発展 - 日本と他国の経験から」と題する講義を、ホーチミン国家政治学院（ホーチミンアカデミー）、外交学院にて行いました。

ベトナム政府は、2045年までに近代的な高所得国となることを目指しています。ベトナムが中所得国の罫を回避し継続的に発展するためには、付加価値労働生産性の向上が重要であるとされ、安価な労働コストに依存する国外からの技術やインフラの導入、FDI（海外直接投資）がけん引する産業構造から、国内リソースによるイノベーションへの戦略の移行が求められています。

講義では、ベトナム政府が2030年までに50,000人の技術者育成の目標を掲げる半導体産業を例に、日本・韓国・台湾のトップ企業の発展の経緯と特徴、教訓が明らかにされました。舟橋准教授は、技術開発は模倣から始まり継続的な研究開発と投資によって可能になること、既存のリソースと強みを活かした明確なマーケットの設定と戦略の立案、関連する政府各局の支援が必要であると述べました。

さらに日本式経営に関し、自動車産業ほかを例に、様々な関係者からの情報・意見収集、製造現場へのフィードバックと技術開発の試行錯誤、製造現場と研究開発、マーケティング間の情報共有等を通じた有形・無形のリソースが企業内に蓄積され、これら既存のリソースを活かしながら他のリソースとも組み合わせることで産業全体の発展へとつながっている構造について紹介しました。

JICAは、2020年に日本の近代化と開発途上国への開発協力から得た経験と教訓を共有する機会を海外にも広げることを目的とし、パートナー国のトップクラスの大学や研究機関等を対象にした「JICA チェア」を立ち上げました。ベトナムにおいては2021年から事業を開始し、日本研究を志向する大学・研究機関へ日本の著名な研究者を派遣し行う特別講義のほか、セミナーの実施、図書の寄贈等を支援しています。今回のホーチミン国家政治学院、外交学院での特別講義はJICA チェアの枠組みで実施されました。

JICAは引き続きベトナムの様々なパートナーの皆様と連携、協力し、ベトナムにおける日本に関する研究を推進するとともに、両国の緊密な友好関係の強化とベトナムの持続的な発展を目指します。

---

お問い合わせ: JICA ベトナム事務所 広報班 関 里緒菜

Tel: (+84-24) 3831 5005(内線 125) E-mail: [Seki-Riona@jica.go.jp](mailto:Seki-Riona@jica.go.jp)